

# 平成 28 年度教育実践専攻（修士課程）における修学に関するアンケート 結果報告

横浜国立大学大学院教育学研究科教育実践専攻運営委員会

齊田 智里  
馬場 裕  
鈴木 雅之

## 1. 目的

教育学研究科教育実践専攻（修士課程）で 1 年間修学した在校生と修了予定者に、修学に関する意識調査を行った。調査の目的は、本専攻に入学した目的や修了後の進路希望、授業等についての満足度や修了後の進路について意識調査を行い、本専攻のカリキュラム編成や授業内容の充実・改善等に役立てること、及び、本専攻に関心をもった学部学生や現職教員等に本専攻の特色等について広く情報提供をすることである。

## 2. 方法

### 2.1 対象者

平成 28 年度末に教育学研究科教育実践専攻在籍中の 1 年次生 113 名と修了予定者 97 名を対象とした。各専門領域の教育実践専攻の大学院運営委員を通して年度末に調査用紙が配付・回収された。1 年次生 97 名、修了予定者 86 名が回答をした。回収率は 1 年次生で 86%、修了予定者で 89% であった。（領域別の回答者内訳は本稿末の調査用紙を参照のこと。）

### 2.2 調査用紙

1 年次生への調査項目：(A) 本研究科教育実践専攻に関する情報の入手ルート、(B) 入学前取得の教員免許状の種類、(C) 大学院在学中に取得を目指す教員免許状、(D) 入学目的、(E) 授業満足度とその理由、(F-1) 在職者以外の 1 年次生の修了後の希望職種、(F-2) 教員就職希望の場合は学校種と採用試験の受験地域。

修了予定者への調査項目：(A) 大学院在学中に取得した教員免許状、(B) 修学満足度、(C) カリキュラムと授業内容の満足度とその理由、(D) 「教育インターン」の意義とその理由、(E-1) 在職者以外の修了予定者の修了後の進路、(E-2) 学校教員の場合の学校種・採用地域・雇用形態。

調査用紙に結果を記載し本稿末に掲載した。

## 3. 結果

### 3.1 本専攻への入学目的

1 年次生に教育実践専攻に入学した目的を尋ねたところ、「教科内容に関する学術的な知識や理論の習得」が 86% (83 名) と最も多かった。次いで、「教員免許状や専修免許状、臨床心理士等の資格取得」60% (58 名)、「教科固有な指導法・教材開発の方法の習得」50% (48 名)、「学校現場で発生する多様な問題に対応できる実践力の養成」39% (38 名)、「学級経営や学校経営に関する知識・方法の習得」17% (16 名) であった。教科教育の専門性向上や資格取得を目的とした入学者が多く、教職大学院で主に扱うような内容の習得を目的とした入学者は比較的少なかった。

### 3.2 入学前の教育実践専攻に関する情報入手ルート

1 年次生に入学前の教育実践専攻の情報入手ルートについて回答を求めた結果は、「大学のウェブサイト」が 56% (54 名) と最も多く、次いで、「募集要項」42% (41 名)、「本研究科の在校生・修了生」42% (41 名)、「本学の教員」40% (39 名)、「本学の教育学研究科説明会」33% (32 名) の順であった（複数回答可）。本学のウェブサイトや教員、研究科の在校生や修了生といった関係者から直接情報を得ている割合が高い。3 名が卒業大学の教員等から勧められたと回答した。

### 3.3 入学前及び在学中に取得した教員免許状

1 年次生に入学前にすでに取得していた教員免許状等の種類を尋ねたところ、「小学校」46% (45 名)、「中学校」59% (57 名)、「高等学校」60% (58 名)、「特別支援学校」9% (9 名) であった。中・高等学校がそれぞれ 6 割程度であり、小学校の 5 割弱を上回った。

入学前に教員免許状を取得していなかった 1 年次生は 25% (24 名) で、全体の 4 分の 1 に相当する。このうち 11 名は氏名から留学生と推察とされる。この 11

名を除くと、入学前に教員免許状を取得していなかった 1 年次生は 86 名中 13 名（15%）、取得していた 1 年次生は 86 名中 73 名（85%）となる。入学時には教員免許状を取得していないが、大学院在学中に新たに教員免許状の取得を希望している 1 年次生は、3 名であった。

入学前に取得した教員免許状の校種数を見ると、1 校種のみが 12%（12 名）で、2 校種が 29%（28 名）、3 校種が 32%（31 名）、4 校種が 2 名（2%）であった。「中学校」と「高等学校」の 2 校種の教員免許状取得者は 22 名、「小学校」と「特別支援学校」の 2 校種の教員免許状取得者は 5 名、「小学校」「中学校」「高等学校」の 3 校種の教員免許状取得者は 30 名であった。入学前に 2 校種以上の校種の教員免許状取得割合が 6 割を超え、特に 3 校種の教員免許状取得者割合が最も高いのが本専攻の特徴であるといえる。

修了予定者が大学院在学中に取得した教員免許状は、「小学校」20%（17 名）、「中学校」38%（33 名）、「高等学校」45%（39 名）であった。内訳をみると、大学院で専修免許状を新たに取得した修了予定者は、「小学校」で 17 名中 13 名、「中学校」で 33 名中 29 名、「高等学校」で 39 名中 31 名、大学院で新たに 1 種又は 2 種の教員免許状を取得した修了予定者は、「小学校」4 名、「中学校」4 名、「高等学校」8 名であった。大学院在学中に何らかの教員免許状を取得した修了予定者は 45 名で、内訳を見ると、校種を問わず専修免許状を取得した修了予定者は 33 名、1 種免許状が 11 名、2 種免許状が 1 名であった。新たに教員免許状を取得した校種数では、1 校種のみが 12 名、2 校種が 19 名、3 校種が 14 名であった。一方、教員免許状を大学院在学中に新たに取得しなかった修了予定者は 41 名と半数近くであった。このうち氏名から留学生と推察される修了予定者は 13 名であり、日本人と推察される修了予定者のみで集計をすると、6 割超が新たな教員免許状を在学中に取得し、4 割弱が取得しなかったということになる。今回の調査対象である 1 年次生が修了予定者となった時の教員免許状取得状況を継続して調査をする必要がある。

### 3.4 満足度の傾向

1 年次生の授業満足度については、「満足」58%（56 名）、「どちらかといえば満足」41%（40 名）を合わせると、99%（96 名）が本専攻の授業に満足をしていた。

その理由として、高い専門性、実践性、主体的な学び、研究方法や内容の充実、理論と実践のバランス、基礎から専門の幅広さ等があげられている。1 名が「どちらかといえば満足していない」と回答しており、その理由は、理論と学校現場とのギャップを感じるという内容であった。

修了予定者の修学満足度は、「満足」70%（60 名）、「どちらかといえば満足」24%（21 名）を合わせると、94%（81 名）が満足をしているという結果であった。教育実践専攻のカリキュラムと授業内容については、「満足」58%（50 名）、「どちらかといえば満足」37%（32 名）で、合わせると 95%（82 名）が満足している。その理由として、質の高い指導、少人数制、高い専門性、理論と実践の融合、3 つの教育群から学べるカリキュラムの充実、学びや研究を追求できる環境の良さ等があげられていた。一方、満足できない理由は 3 名が記入し、授業の開講曜日に偏りがあることや、履修できる時間数が限られていること等であった。

本研究科教育実践専攻では、「教育インターン」という必修科目がある。「教育インターン」は、学生が自らの目的と解決すべき課題をもって現場に赴き、大学教員の指導を受けつつ、その課題に取り組むための科目である（詳しくは、本専攻のホームページを参照のこと）。「教育インターン」については、「意義があった」58%（50 名）、「どちらかといえば意義があった」36%（31 名）を合わせると、修了予定者の 94%（81 名）が意義を感じていた。その理由の多くは、実際の現場を知れるよい機会、自らの研究と実践をつなぐよい機会等であった。意義がなかったと記載したのは 6 名で、自身の研究との結びつきを感じられなかった、現職教員にも一律に行わせることへの疑問、手続きにかかる書類を整えることの大変さ等が理由であった。

### 3.5 在職者以外の場合の進路希望と修了後の進路

1 年次生では、在職者数は 22 名で、在職者以外的人数は 75 名であった。在職者以外への調査結果は、修了後に希望する職種は、学校教員が 61%（46 名）と最も多く、次いで博士課程進学が 13%（10 名）、教育関連の企業（塾、予備校等）が 12%（9 名）、教育関連以外の企業が 12%（9 名）であった。学校教員を希望する 46 名の就職希望校種は、小学校 28%（13 名）、中学校 28%（13 名）、高等学校 43%（20 名）、特別支援学校

4% (2名)で、高等学校を希望する場合が最も多かった。受験地域は、公立の場合、神奈川県30% (14名)、横浜市26% (12名)が多く、私立学校の受験希望は13% (6名)であった。

修了予定者では、在職者数は20名、在職者以外の人数は66名であった。在職者以外の修了後の進路は、学校教員が44% (29名)、教育関連以外の企業に就職が16% (11名)、博士課程進学が14% (9名)であった。学校教員として就職予定の29名の学校種は、小学校17% (5名)、中学校28% (8名)、高等学校38% (11名)、特別支援学校3% (1名)で、高等学校に就職する割合が最も高く、次いで中学校であった。受験地域は、横浜市、川崎市、相模原市を含めた神奈川県は38% (11名)で最も割合が高い。私立学校就職割合は24% (7名)、雇用形態は常勤が79% (21名)で、臨時任用が7% (2名)、非常勤が7% (2名)となっている。

1年次生で博士課程進学希望者は13% (10名)、修了予定者で博士課程に進学する者は14% (9名)である。

#### 4. 考察

教育学研究科教育実践専攻への入学目的の多くが、教科教育の専門性向上や資格取得のためである。教職大学院が対象とする学校現場の多様な問題や学校経営に関わる知識や方法を幅広く習得することを目的に入学した1年次生はあまり多くない。教育学研究科は、教科教育の専門家を育成する役割を担うことが受験者たちから期待されている。

情報の入手ルートを見ると、研究科のホームページ上での情報発信を強化しながら、在校生や修了生、教員を通して口コミで情報を提供することが、受験生獲得に有効であることが伺える。

入学前に教員免許状を取得していた1年次生は、全体の4分の3で、留学生を除けば8割を超える。複数の校種の教員免許状を取得している割合が6割以上と高いのが特徴である。特に小・中・高等学校の3校種を取得している割合が3割と最も高く、教職に関する高度な意識が伺える。大学院在学中に新たな教員免許状を取得した修了予定者は45名で半数を超え、そのうち33名は専修免許状を取得した。高等学校、中学校、小学校の順に取得者が多い。留学生数が年度によって異なり教員免許状取得割合が変動するが、概ね本専攻は「教職の高度化」という役割を十分果たしているといえよう。

入学後の授業満足度は、1年次生も修了予定者も9割以上と非常に高い。本研究科のカリキュラムと授業内容が、教科の高い専門性と実践性とを効果的に結びつけていると高く評価された結果といえる。「教育インターン」も理論や研究を実践の場で具体化する貴重な機会として認識され、大いに意義が感じられている。

修了後の進路では、1年次生(在職者を除く)の6割以上が学校教員を希望しており、高等学校、中学校の順で希望者が多い。地元の神奈川県や横浜市の公立学校での教員を志望する割合が半分以上と高い。修了予定者(在職者を除く)では、学校教員として就職する割合が4割以上で、そのうち高等学校と中学校が7割近くと高くなっている。横浜市や川崎市、神奈川県公立学校の教員として就職する割合が5割近くである。以上から本専攻は、地元神奈川県や横浜市の公立学校教員養成、特に中学校や高等学校の教員養成に大いに貢献しているといえる。

#### 5. 結論

本研究科教育実践専攻は、教科教育の専門家の育成という役割が受験者と在校生から期待され、理論と実践のバランスのとれた特色あるカリキュラムや授業内容は、在校生の期待に十分応えているといえる。地元神奈川県や横浜市の公立の小・中・高等学校への教員の輩出に着実な実績をあげている。1割以上の在校生が博士課程への進学を希望し実現している。本専攻は、理論と実践のバランスのとれた高度職業人としての教育者や研究者の育成に大いに貢献をしているといえる。

#### 謝辞

調査データの入力と集計をしてくれた、教育デザイン専攻(英語領域)1年次生の須田洋平氏に感謝します。

平成 29 年 2 月 10 日

## 教育実践専攻における修学に関するアンケート（1 年次生）

横浜国立大学大学院教育学研究科教育実践専攻運営委員会

本アンケートの目的は、教育学研究科教育実践専攻に 1 年間修学された在學生について、本専攻に入学した目的や修了後の進路希望、授業等についての満足度について調査することで、本専攻のカリキュラム編成や授業内容の充実・改善等に役立てること、また、この調査結果を開示することによって、本専攻に関心をもった学部学生や現職教員などに本専攻の特色等について広く情報提供をすることにあります。

なお、追跡調査の必要から、学籍番号と氏名を記入していただきますが、本アンケートで得られた個人に関する情報は教育実践専攻運営委員会において適切に管理され、第三者に提供されることは一切ありません。

回答者数：97名（内訳：英語 6、音楽 4、家政 4、教育学 6、国語 8、社会 10、心理 5、数学 9、特別支援 10、日本語 7、美術 3、保健体育 6、理科 10、臨床心理 5、技術 4）

【A】あなたは、入学前に本研究科の教育実践専攻の情報をどこから入手しましたか？ 下記の中から当てはまる番号すべてを  内にお書きください。8)については、( ) 内に具体的にお書きください。

- |                         |                      |
|-------------------------|----------------------|
| 1)大学のウェブサイト 54 (56%)    | 2)大学発行のリーフレット 8 (8%) |
| 3)本学の教育学研究科説明会 32 (33%) | 4)募集要項 41 (42%)      |
| 5)本学の教員 39 (40%)        | 6)勤務先の学校長 4 (4%)     |
| 7)本研究科の在學生・修了者 41 (42%) |                      |
| 8)その他 10 (10%) ( )      |                      |

【B】あなたが、入学前にすでに取得していた教員免許状等の種類を、以下の枠内の該当欄にすべてご記入ください。（「種/級」の記入欄については、「種」「級」のどちらかを削除してください。）

小学校	45(46%)	中学校	57(59%)	教科 ( ) ( ) ( )
特別支援学校 ( )	9(9%)	高等学校	58(60%)	教科 ( ) ( ) ( )
養 護	4 (4%)	その他	4(4%)	

【C】あなたが、大学院在学中に取得をめざしている教員免許状（専修免許状を除く）等がありましたら、以下の枠内の該当欄にすべてご記入ください。（「種/級」の記入欄については、「種」「級」のどちらかを削除してください。）

小学校	4 (4%)	中学校	10(10%)	教科 ( ) ( ) ( )
特別支援学校 ( )	5(5%)	高等学校	11(11%)	教科 ( ) ( ) ( )
養 護	0(0%)	その他		

【D】あなたが、本専攻に入学した目的をお答えください。下記（裏面）の中から当てはまる番号すべてを  内にお書きください。6)については、( ) 内に具体的にお書きください。

- 1)教員免許状や専修免許状、臨床心理士等の資格の取得 58(60%)
- 2)教科の内容に関する学術的な知識や理論の修得 83(86%)
- 3)教科に固有な指導法・教材開発の方法の修得 48(50%)
- 4)学級経営や学校経営に関する知識・方法の修得 16(17%)
- 5)学校現場で発生する多様な問題に対応できる実践力の養成 38(39%)
- 6)その他 3(3%) ( )

【E-1】あなたが1年次に履修した授業の内容について、満足できましたか？下記の中から最も当てはまる番号1つを[ ]内にお書きください。

- 1)満足している 56(58%) 2)どちらかといえば満足している 40(41%)  
3)どちらかといえば満足していない 1(1%) 4)満足していない 0(0%)

【E-2】5-1で1)または2)と回答された方にお尋ねします。どのような点で満足できましたか？以下の枠内に自由にお書きください。(代表的な回答)

(記載者数 95名)

- ・専門性の高い授業であった。
- ・授業が実践的であった。
- ・議論中心の主体的な学びの授業であった。
- ・学ぶということの難しさ、深さを痛感し、より勉学に励んでいきたいと思う授業が多かったため。
- ・学部の時よりも教授法や研究方法など深く掘り下げて学ぶことが出来たこと、英語の論文を読む機会が多かったこと。
- ・研究方法を知ることが出来た。
- ・最新の研究についても知ることができた点。
- ・理論的な内容と実践的な内容のバランスが良いと感じたこと。
- ・基本的な内容から専門的なことまで幅広く学べたから。
- ・教授の指導が良かった。など

【E-3】5-1で3)または4)と回答された方にお尋ねします。どのような点で満足できませんでしたか？以下の枠内に自由にお書きください。

(記載者数 1名)

- ・理論ばかりで、実際の学校現場とのギャップを感じるが多かったため。

※ 以下の質問は、教員及び教育関連職の在職者以外の方に回答をお願いします。

在職者以外の数：75名（在職者数：22名）

【F-1】現時点で、修了後に希望する職種は何ですか？以下の中の当てはまる番号すべてを[ ]内にお書きください。8)については、( )内に具体的にお書きください。

- 1)学校の教員 46(61%) 2)地方公務員(教員以外) 5(8%)  
3)国家公務員(教員以外) 2(3%) 4)教育関連の企業(塾、予備校など) 9(12%)  
5)教育関連以外の企業 9(12%) 6)自営業 1(1%) 7)博士課程進学 10(13%)  
8)その他 7(9%) (臨床心理士、スクールカウンセラー、日本語教師など)

【F-2】F-1で、1)の「学校の教員」を選択された方にお尋ねします。教員として就職する場合の希望する1.学校種と2.採用試験の受験地域について、現時点で最もよく当てはまるものの番号を下記の中から選択し、[ ]内にお書きください。1.の5)、2.の6)と8)については、( )内に具体的にお書きください。教員志望者数：46名の内訳

1. 学校種

- 1)小学校 13(28%) 2)中学校 13(28%) 3)高等学校 20(43%) 4)特別支援学校 2(4%)  
5)その他 4(9%) ( )

2. 受験地域

- 公立：1)神奈川県 14(30%) 2)横浜市 12(26%) 3)川崎市 2(4%) 4)相模原市 1(2%)  
5)東京都 3(7%) 6)その他 8(17%) ( )道・府・県 7)未定 2(4%)  
○私立：8) 6(13%) (地域名：神奈川県、東京都、千葉県など) 9)未定 4(9%)

ご回答、ありがとうございました。

平成 29 年 2 月 10 日

## 教育実践専攻における修学に関するアンケート（修了予定者）

横浜国立大学大学院教育学研究科教育実践専攻運営委員会

本アンケートの目的は、教育学研究科教育実践専攻の修了予定者について、授業等についての満足度や修了後の進路について調査することで、本専攻のカリキュラム編成や授業内容の充実・改善等に役立てること、また、この調査結果を開示することによって、本専攻に関心をもった学部学生や現職教員などに本専攻の特色等について広く情報提供をすることにあります。

なお、追跡調査の必要から、学籍番号と氏名を記入していただきますが、本アンケートで得られた個人に関する情報は教育実践専攻運営委員会において適切に管理され、第三者に提供されることは一切ありません。

回答者数：86名（内訳：英語 6、音楽 7、家政 2、教育学 3、国語 9、社会 11、心理 5、数学 5、特別支援 3、日本語 8、美術 7、保健体育 8、理科 7、臨床心理 5、技術 0）

【A】あなたが、大学院在学中に取得した教員免許状等がありましたら、以下の枠内の該当欄にすべてご記入ください。（「種/級」の記入欄については、「種」「級」のどちらかを削除してください。）

小学校	17(20%)	中学校	33(38%)	教科 ( ) ( ) ( )
特別支援学校 ( )	1(1%)	高等学校	39(45%)	教科 ( ) ( ) ( )
養 護	0(0%)	その他	2(3%)	

【B】あなたは、総じて、教育学研究科教育実践専攻における修学に、満足できましたか？

1) 満足している 60 (70%) 2) どちらかといえば満足している 21 (24%)  
3) どちらかといえば満足していない 4 (5%) 4) 満足していない 1 (1%)

【C-1】あなたは、教育実践専攻のカリキュラムと授業内容について、満足できましたか？

1) 満足している 50 (58%) 2) どちらかといえば満足している 32 (37%)  
3) どちらかといえば満足していない 2 (2%) 4) 満足していない 2 (2%)

【C-2】C-1 で 1) または 2) と回答された方にお尋ねします。どのような点で満足できましたか？ 以下の枠内に自由にお書きください。（代表的な回答）

（記載者数 82 名）・教授の的確な指導を受けられた。  
・少人数制・議論中心の質の高い授業であった。  
・専門性の高い授業であった。  
・理論と実践の結びつけて学ぶことができた。  
・カリキュラムと授業内容について 3 つの教育群から選べたので、とても充実なカリキュラムであった。  
・自分の学びたいこと研究したいことに時間をかけてじっくり取り組める環境があったため。など

【C-3】C-1 で 3) または 4) と回答された方にお尋ねします。どのような点で満足できませんでしたか？ 以下の枠内に自由にお書きください。

（記載者数 3 名）  
・授業の開講時間を増やすなどしてほしい。木・金の授業はほとんどない印象。小専免を取ろうとしている人は苦しいと思う。  
・自身の体調不良

【D-1】教育現場と大学の往還による実践の研究の深化を目的とする必修科目「教育インターン」はあなたにとって意義がありましたか？

1) 意義があった 50 (58%) 2) どちらかといえば意義があった 31 (36%)  
3) どちらかといえば意義はなかった 5 (6%) 4) 意義はなかった 0 (0%)

【D-2】C-1 で 1) または 2) と回答された方にお尋ねします。どのような点に意義があったと思いますか？ 以下の枠内に自由にお書きください。

(記載者数 78 名) ・実際の現場を見る良い機会となった。  
・自分の研究を実践・調査する機会となった。  
・現場の実際を見ることで、研究の幅が広がる。  
・理論と実践をつなげる場所となった。  
・現職の高校教員ですが、高校の現場ではなかなか他の先生の授業を参観する機会がないため、自分の今までの授業を振り返ることに役立ちました。  
・現場で子どもたちと関わることができるのはとても有意義だと思います。  
・実際に現場に出向いて、現職の教師に話を聞く事ができた。など

【D-3】C-1 で 3) または 4) と回答された方にお尋ねします。どのような点で意義がなかったと思いますか？ 以下の枠内に自由にお書きください。

(記載者数 6 名) ・自身の研究との結びつきを感じられなかったため (3 名)。  
・インターン実施時は現職教員として勤務していたため、勤務校で教育インターンを実施し、研究のデータの取得には良い機会であったが、なくても各個人で経験できる機会だと感じたため。  
・現職教員にも一律に行わせる形は改善を望みます。また、転勤校でのインターンであっても、健康診断の書類をそろえることなどは、負担が大きい。  
・領域内にまかされている部分が多く、学生のみでは要領を上手くつかめなかった。

※ 以下の質問は、教員及び教育関連職の在職者以外の方に回答をお願いします。

在職者以外の数：66 名 (在職者数：20 名)

【E-1】あなたの修了後の進路について、以下の中から当てはまる番号を  内にお書きください。8) については、( ) 内に具体的にお書きください。

- 1) 学校の教員 29(44%) 2) 地方公務員 (教員以外) 5(8%)  
3) 国家公務員 (教員以外) 1(2%) 4) 教育関連の企業 (塾、予備校など) 2(3%)  
5) 教育関連以外の企業 11(16%) 6) 自営業 1(2%) 7) 博士課程進学 9(14%)  
8) その他 8(12%) (教育センターの心理相談員など)

【E-2】E-1 で、1) の「学校の教員」と書かれた方にお尋ねします。1. 学校種、2. 採用地域、3. 雇用形態について、下記の中から選択して、その番号を  内にお書きください。1. の 5)、2. の 6) と 8) については、( ) 内に具体的にお書きください。

(学校の教員志望 29 名中)

1. 学校種  
1) 小学校 5(17%) 2) 中学校 8(28%) 3) 高等学校 11(38%) 4) 特別支援学校 1(3%)  
5) その他 4(13%) ( )  
2. 受験地域  
○公立：1) 神奈川県 7(24%) 2) 横浜市 1(3%) 3) 川崎市 3(10%) 4) 相模原市 0(0%)  
5) 東京都 1(2%) 6) その他 9(14%) ( ) 道・府・県)  
○私立：8) 7(24%) (地域名：東京都、茨城県、横浜市、川崎市、シンガポール、オーストラリア)  
3. 雇用形態：1) 常勤 21(79%) 2) 臨時的任用 2(7%) 3) 非常勤 2(7%)

ご回答、ありがとうございました。